

自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 24, No. 4 神奈川県立生命の星・地球博物館 Dec. 2018



ホソスゲ

(カヤツリグサ科スゲ属)
Carex disperma Dewey

2016年6月
北海道厚岸郡厚岸町

かつやま てるお
勝山 輝男 (学芸員)

カヤツリグサ科スゲ属 *Carex* L. は世界に約2000種があり、日本には269種があるとされます(勝山, 2015)。私は当館の開館以来、スゲ属植物を研究し、日本産のものはすべて生育地を訪ね、生態写真を撮影し標本を収集してきました。2015年度冬の企画展「日本のスゲ 勢ぞろい」ではその成果として、日本に現存が確認された全種の標本を展示しました。一方、ホソスゲは北半球の亜寒帯に広く分布するスゲですが、日本では明治時代にユルバン・フォーリー(1847-1915)による北海道の厚岸と、

1954年の小山鐵夫による猿払の2記録があるのみで、生育が確認できない唯一の種でした。環境省のレッドデータブック(環境省編, 2015)でも絶滅(Ex)と判定されていました。企画展の翌夏、北海道でおよそ60年ぶりにホソスゲが再発見されました。2016年6月15日に現地を訪ね、その生態を撮影し、標本を作製しました。これで当館には日本産のスゲ属植物全種の標本がそろいました。生育地は厚岸町のアカエゾマツ林内で、明治時代にフォーリーが記録した場所からそれほど遠くない所でした。

両生・爬虫類の標本工房

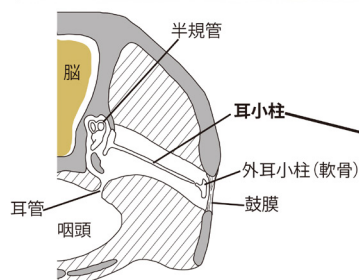
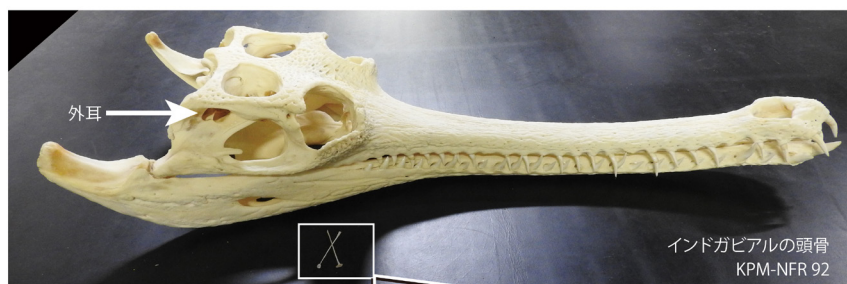
まつもと りょうこ
松本 涼子(学芸員)

標本を増やそう！

展示室で目にする両生・爬虫類の標本は、剥製、組み立て骨格、時にはレプリカだったりします。一方、学術標本として収蔵庫に保管されるのは、保存液に浸された液浸標本が主流であり、多少色が褪せ、身体の大きさが縮む事があっても、軟組織と骨格を生きていた当時に近い状態で保存できる利点があります。しかし、動物の動きと骨格の仕組みなどを調べるには、骨格標本も必要ですし、1 cmにも満たない小さな動物の骨の形を調べるには、硬骨と軟骨を染色した透明標本が有効です。さらに動物の生体写真や鳴き声も、大切な資料になります。そのため、博物館では様々な利用目的に応じた、多様な標本の収集が求められています。

コレクションの特色

国内外の自然史博物館の収蔵庫を覗いてみると、それぞれのコレクションに特色がみられます。これは、歴代の研究員や学芸員の専門、収集方針に起因するところが多分にあり、各博物館の個性とも言えます。当館の両生・爬虫類コレクションにはどんな個性があるのでしょうか？サドガエル *Glandirana susurra* のタイプ標本は自慢の1つですが、コレクションを拡大していく上で意識しているのは、様々な用途で利用できる標本の収集です。液浸標本だけでなく、国内の収蔵数が比較的少ない骨格標本、自身の研究のためにも蓄積を続けているμCTデータも充実させるのが目標です。神奈川県各地域に生息する両生・爬虫類は当然の事ながら、自身の研究や、展示を行う上で各分類群を網羅的に収集する必要があるため、動物園や水族館から提供される検体は大変重要です。特にカメ類は、動物園に加えて、海岸に打ち上がったウミガメも集まるため、骨格標本が充実しつつあります。加えて、身体を構成する骨の中には、鼓膜から伝わる振動を内耳に伝える「耳小柱」という針のような細い骨や(図1)、豆粒のような小さな骨があるのですが、これらについても取りこぼす事の無いように、細心の注意を払い、ほぼ完全な一体



爬虫類の耳の構造 (Kardong より)

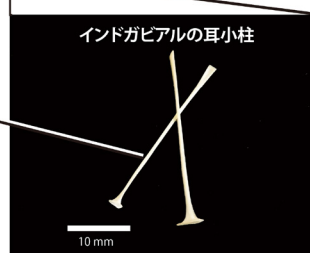


図1. 大きなワニの小さな骨, 耳小柱。

分の骨格標本を作製しています。標本調査に訪れた大学院生や研究仲間から「骨格標本がスゴイ！」と称賛を受けているので、今後も自信を持って収集を続ける予定です(図2)。



図2. 大収蔵庫の両生・爬虫類の棚。

ボランティア活動

多様な標本作製は、ボランティアの皆さんの協力があってこそ成立しています。各分野のボランティア活動を拝見すると、構成メンバーや活動雰囲気が様々であるのが大変興味深いです。両生・爬虫類については、意外に感じられるかもしれませんが、半数以上が女性で、学生から社会人まで年齢層が幅広いのが特徴です(図3)。活動内容はその都度変化しますが、主に液浸・骨格・透明標本作製をしています。ときには、蠟の様なポリエチレングリコールを利用して、軟組織の乾燥標本の作製に挑戦することもあります。標本作製の手法については、様々な書籍も出ていますが、検体の大きさや状態、動物

の種類によって、方法を変える必要があるため、他の博物館の方々と情報交換をしながら、試行錯誤して取り組んでいます。その中で、ボランティアの方々のアイディアに助けられることが多く、大変頼りになる、ありがたい存在です。



図3. 両生・爬虫類のボランティア活動の様子。

ヘビの骨格標本を作ろう

当館の大きな冷凍庫の中には、動物園や水族館から提供された検体が仮置きされています。現在、冷凍庫にある両生・爬虫類の検体の大半は、大小様々なヘビです(最大5m級)。これは、ヘビを集中的に収集しているのではなく、標本作りを敬遠してしまった結果です。なぜ、ヘビの骨格作りが進まないのか？その理由は、標本作製の手順を読んでいただければご理解頂けるでしょう。

骨格標本作製の手順1 ～解剖と除肉～

検体の計測を行った後、剥皮を行い、軟組織を取り除いていきます。背中に大きな甲羅を担いでいるカメでは、四肢の

筋肉が発達して意外とマッチョですが、ヘビの場合、主要な筋肉は、肋骨と背骨（椎体）の周囲に限られるため、手慣れた人であれば半日で除肉を終えられます。苦行は次の段階から始まります。

手順2 ～煮込み前の下準備～

ヘビの骨格は、100個以上の肋骨と椎体で構成されています。体をくねらせ、大きな獲物を胃に押し込めるため、この肋骨と椎体は、ゆるく関節しているため、軟組織を除去すると、すぐに分離してしまいます。四肢をもつ爬虫類では、各部位を構成する背骨と肋骨の形は顕著に異なり、数も少ないので、復元可能ですが、ヘビのように部位ごとの特徴がほとんどない椎体と肋骨を元の状態に並べるのは大変な労力です。そこで、解剖後、鍋に入る大きさにヘビを分割し、背骨に針金を通し、肋骨を一本ずつタコ糸で縛っていきます（図4）。この作業は3～4人で行っても1日は掛かるので、地道で大変な作業です。

ヘビの皮については、アルコールで固定した後、乾燥標本にすることもありますが、乾燥昆布のように硬くなるのが難点です。そこで、グリセリンを浸透させ、乾燥させる方法を知人に教わり、試したところ、皮の柔軟性は維持できましたが、大変臭い標本が完成しました。



図4. オオアナコンダの骨格標本製作。背骨に針金を通し、肋骨はタコ糸で結びつける。

手順3 ～煮る・洗う～

博物館には大型動物の骨を煮るための大きな「お風呂」があるのですが、煮込み加減を調整しにくいので、小型動物ではスロークッカーをします。1～2日ほど煮込み、軟組織が煮溶ける少し前の段階で鍋から引き上げ、水でよく洗います（図5）。

手順4 ～乾燥と組み立て～

乾燥させた骨は、燻蒸した後、部位ごと



図5. 歯ブラシなどを使い、丁寧に軟組織を洗い流す。

に小分け袋に入れ、標本ラベルと共に収蔵庫で保管します。しかし、肋骨をタコ糸で結んだ状態のヘビの骨は、バラバラになるため、肋骨と椎体を接着剤で固定して保管します。ここまでの作業が完了するのに1ヶ月は必要です（図6）。

ミニ企画展示で活動報告

ボランティアの皆さんと共に作製した



図6. 肋骨を接着剤で固定する。

標本の一部は、当館ライブラリー横のミニ企画展示コーナーにて、「両生・爬虫類の標本工房～ボランティア活動報告展～」と題して、10月2日（火）～11月11日（日）の期間で展示しました（図7）。この展示製作にも、ボランティアの方々のアイディアが盛り込まれていました。見所は、前述の工程を経て作製した全長約3mのオオアナコンダの骨格、入れ歯洗浄剤を使って作製した小さな爬虫類や両生類の骨格に加えて、透明標本がありました。中でもオタマジャクシからカエルに変態する過程で、骨が形成されていく様子を段階ごとに可視化できる透明標本は、大変興味深いものです（図8）。今後も両生・爬虫類のボランティアの皆さんの渾身の一作を蓄積し、研究・展示・講座などに活用していきたいと思います。

謝辞

両生・爬虫類ボランティアの皆さん、特に展示作製に関わった渡邊かをりさん、井上昭さん、加藤桃子さん、瀬戸千晶さん、岩崎やすえさん、岩崎友子さん、検体を提供して下さった石原龍雄さん、石井雅之さん、野毛山動物園、体感動物園iZOOに感謝いたします（順不同）。



図7. ミニ企画展示「両生爬虫類の標本工房～ボランティア活動報告展～」の全景。オオアナコンダの全身骨格は左下。



図8. モリアオガエルの透明標本。頭部の骨の形成は、脳の周辺から形成されていく様子が観察できる。

日本に初めて打ち上げられたシロナガスクジラ

たる はじめ さきやま ただお すずき さとし たじま ゆう こ
 樽 創¹・崎山 直夫²・鈴木 聡¹・田島 木綿子³
 1: 当館学芸員、2: 新江ノ島水族館、3: 国立科学博物館

神奈川県に漂着したシロナガスクジラ

2018年8月5日に1頭のヒゲクジラが、鎌倉市の由比ヶ浜に漂着しました。全長が10 mほどのヒゲクジラでした。その後、これまで日本の海岸に打ち上げられたことのない種類のヒゲクジラであることが分かりました。

その日の17時頃、著者の一人の樽は観音崎自然博物館でゾウの化石についての講演をして、ちょうど帰ってくる途中でした。携帯電話には、すでに著者の一人の崎山からの着信があり、また、日本セトロロジー研究会の石井雅之さんからもそのクジラの話題が留守番電話にありました。2人ともその時、ヒゲクジラの打ち上げられた場所にいたのです。その時はイワシクジラらしい、という話も出ていたそうです。そうしたところ、著者の一人の田島から、山田 格名誉研究員は「シロナガスクジラではないか？」と推測している、と連絡がありました。

観音崎自然博物館から新江ノ島水族館までに向かう途中、鎌倉市の由比ヶ浜海岸を左手に見ることができます。海のそばを通過した時には、その日に集まった研究者たちは既に帰り、夕暮れの中で大勢の人に囲まれた、ヒゲクジラが横たわっていました。

その後、新江ノ島水族館に立ち寄り、崎山に会い、田島とヒゲクジラの確認を急ぎました。崎山がその日撮った多数の写真は、同定に役立ちました。青灰色の体表上に白い斑紋が浮いていること、胸ビレの形、背ビレの位置などと畝状の凸凹が腰部にあることなどから、シロナガスクジラの幼獣(図1、2)であることがわかりました。ここまでの、その日の21時ごろまで



図1. 畝状の凸凹がある体。A: 体の下側から写真と、B: 体の右横からの写真。

に判明したことでした。

翌朝、樽は7時半ぐらいに由比ヶ浜海岸に着きました。到着すると、新江ノ島水族館の崎山、西谷知佳さん、加登岡大希さんと国立科学博物館の田島、山田さんほか、石井さんなどがすでに現地に着いていました。シロナガスクジラは、腹部を上にして横たわっていました。ペニスが見えたため(図3)、オスであることがわかりました。

シロナガスクジラの名前

和名はシロナガスクジラ、学名は *Balaenoptera musculus* (Linnaeus, 1758)、英語では Blue Whale といいます。シロナガスクジラは、漢字で書くと白長須鯨です。英名は、体表が全体に灰色から青灰色に、白いかすり状の模様があることからつけられた名前です。

シロナガスクジラが記載された1758年は、動物命名規約(動物の学名をつける時の決まりごと)の基準である「Systema Naturae」の10版が出版された年です。

つまり、シロナガスクジラは、今から260年も前に命名されていたのです。学名の *Balaenoptera* はギリシャ語でクジラを意味する *balaena* と、翼またはヒレを意味する *pteron* を合わせてラテン語化したもの、種小名の *musculus* はラテン語で筋肉と小ネズミを意味するようで、リンネは両者を踏まえたようです。

シロナガスクジラの大きさ

シロナガスクジラは、世界で最も大きな哺乳類です。成獣で全長33.6 m、体重は177 tにもなり、幼獣のサイズは全長6～8 mとされています(バルタ, 2016)。今回のシロナガスクジラは全長10.52 mの幼獣でした。当初イワシクジラか？と考えた人がいたのは、波で近寄れない中、前肢後端のすぐ後で終わる短い畝だけ見えたためです。ましてこの個体が、シロナ



図3. 生殖器(ペニス)。



ガスクジラとは思わなかったのでしょう。あとでわかったのですが、解剖にあたった田島は、全長10.52 mあるのに脊椎骨でさえ癒合が進んでいなかった（幼獣の脊椎骨は6パーツからなる）ことをみています。

シロナガスクジラの分布

シロナガスクジラの漂着は、国立科学博物館の海棲哺乳類ストランディングデータベースと石川ほか（2013）から、以下の3例が確認できました。国立科学博物館の1790年3月21日からのデータベースには、1870年2月1日の大分県臼杵市大泊町、および1878年の石川県珠洲市馬縹町鰐崎海岸への漂着の2件、石川ほか（2013）には1913年に鹿児島県の奄美諸島の請島への漂着記録がありましたが、どれも事実確認できる証拠資料が存在しないため、本当にシロナガスクジラだったのか検証することができず、疑わしいものばかりです。これらの記録時期から100年以上たった2018年8月5日、神奈川県鎌倉市の由比ヶ浜海岸に打ち上げられた本個体は、事実確認できる資料を伴い、シロナガスクジラとして同定されたので、これをもって国内初の確実な記録となりました。

シロナガスクジラの特徴

今回漂着したシロナガスクジラからは、新たに下記のことわかりました。

1. 体表に畛状の凹凸（在胎痕）があることから、哺乳期の

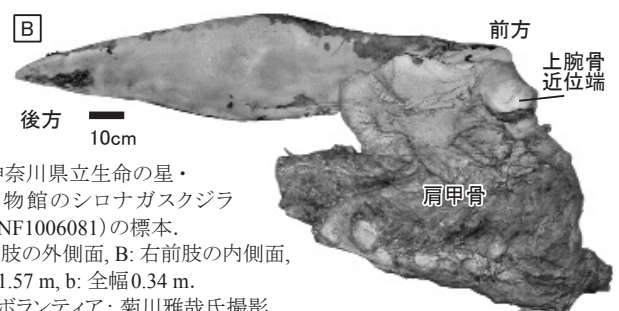
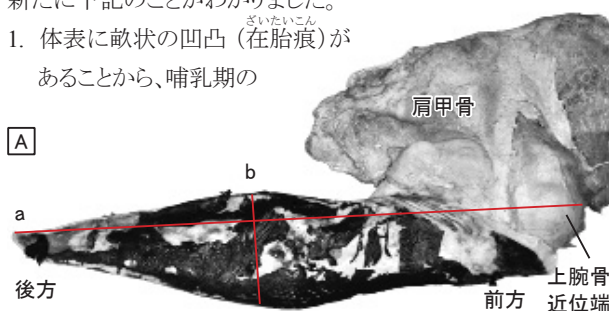


図5. 神奈川県立生命の星・地球博物館のシロナガスクジラ (KPM-NF1006081) の標本。A: 右前肢の外側面, B: 右前肢の内側面, a: 全長 1.57 m, b: 全幅 0.34 m. 哺乳類ボランティア: 菊川雅哉氏撮影



図2. シロナガスクジラ *Balaenoptera musculus* (Linnaeus, 1758).

- 幼獣であることが判明。
2. 相対的に頭部が小さい: ヒゲジラの場合、摂餌行動が始まる離乳期から頭部が飛躍的に大きくなる。当該個体はまだ摂餌開始以前の哺乳期個体である。
3. 舌にフリンジ（母乳をこぼさないための構造）がある。
4. 背びれが体の中心より尾側にあり、相対的に小さい。
5. 灰色から青灰色の体表上に白い斑紋が見られる。
6. クジラヒゲが全て漆黒色である（図4）。
7. 前肢の外側が黒く、内側が白い（図5）。
8. 体の大きさの割に前腕が小さい。

シロナガスクジラの右前肢

当館では右前肢を標本として保管することになりました (KPM-NF1006081)。その標本の大きさは、長さ1.57 m（上腕骨近位端～ヒレの先端）、幅0.34 mで、肩甲骨も関節した状態で保存しているため、前肢骨全体が関節した状態を復元することが可能です。

このように、標本化に向けた作業は困難を極めるものでしたが、日本初のシロナガスクジラの標本を残すことができました。

謝辞

鎌倉市市民生活部、神奈川県藤沢土木事務所、国立科学博物館、神奈川県立

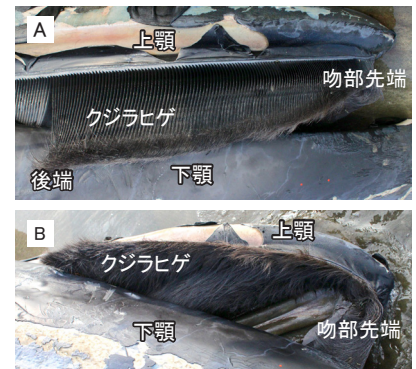


図4. 真っ黒なクジラ髭。A: 横から見ると規則正しく並んでいるように見えるが、B: 咬合面から見ると並びは不規則である。

生命の星・地球博物館の哺乳類ボランティア、および現地にいらした方々には、現場での撮影や標本作製などで大変お世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。

参考文献

- アナリサ・ベルタ（編）山田 格・黒輪篤嗣（訳）、2016. 世界のクジラ・イルカ百科図鑑. 288 pp. 河出書房新社, 東京.
- 石川 創・後藤睦夫・茂越敏弘, 2013. 日本沿岸のストランディングレコード (1901 - 2012). 下関鯨類研究室報告, (1), 1 - 314.
- 国立科学博物館, 海棲哺乳類ストランディングデータベース. <http://www.kahaku.go.jp/research/db/zoology/marmam/drift/index.php?k=&x=0&y=0>

学芸員と標本土—鳥獣標本を継承する2つの人材—

ひろたに ひろこ
広谷 浩子(学芸員)

旅立ち

この秋、私たちは、大切な人物を日本から送り出しました。2009年冬から10年近くにわたって、さまざまな場面で当館の活動を支えてくださった標本土の相川 稔さん(自然科学のとりら 第16巻3号)。高校卒業後、ドイツに渡り、標本作製の技術を学び、ドイツの博物館で標本土として働いていた方です。「標本作製の技術を日本にも」と、帰国された相川さんは、多くの人たちに標本作製の技術を伝えてきました。確かな技術、豊富な知識と何よりも穏やかな性格に魅了され、多くの人たちが彼の元を訪ね教えを乞うてきました。しかし、国内の博物館では、安定したポストが見つからず、とうとう古巣のドイツへと旅立って行かれました。

標本土の活躍

「標本土」とは耳慣れないことばですが、欧米の博物館では、標本の作製・管理や様々なもの作りを行う技術者が働いているのです。総合博物館では、動物資料や地学資料などの各分野に特化した複数のスタッフがいて、ことも珍しくありません。そのような技術者を養成する専門学校もあります。日本には、はく製や骨格標本等の作製を請け負う「はく製師」がいますが、標本土は博物館を活動の場としている点が特徴です。

標本土は博物館活動を支える人材として活躍し、展示のためだけではなく、研究用や教育用など目的に応じた標本を用意したり、修繕をしたりもします。実際、相川さんが活動をしていた時には、我々も様々な教育用標本を作っていただきました(自然科学のとりら 第22巻1号)。

標本土は博物館の事業の中でこそ最も輝く人材なのですが、博物館によりそう技術者として働きたいという相川さんの希望は、とうとうかないませんでした。10年の間



図1. 相川さんの実演を見る人々。鳥学会2018。

	仕事内容	必要とされる素養	研修・養成形式
学芸員	資料の整理保管 資料の情報管理 地域博物館連携の推進	自然史標本の継承に関する情報 対象動物の ・生態的知見 ・形態的知見 衛生的な知識 ・人獣共通感染症について ・作業時の事故等への備え	研修会 情報交換会
標本土	検体の見極め 標本作製 作製技術等の指導	標本作製技術 標本保管方法の知識 道具・薬品についての知識 技術伝達のための指導力	講習会 技術認定 登録システム

図2. 博物館の鳥獣標本継承に関わる2つの人材 (作図 加藤ゆき)。

に、標本を作ったり活用したりする人々がふえ、標本土の存在が注目されるようになりましたが、おひざ元の博物館に改革の風が吹くことはなかったのです。一緒に働いて、標本土の仕事の重要さをわかった私が、働く場づくりに貢献できなかったことを深く反省しています。

後悔を機に提案したいこと

深い反省を超えて、私がたどりついたのは、博物館で鳥獣標本作製を担う人材を育成する事業を提案することです。博物館の仕事の内容と必要になる素養を整理して、博物館にとって必要な人物像を明らかにしたいと思います。

図2にあるように、博物館の鳥獣標本継承に関わる人材は、大きく2つに分けられます。ひとつは、標本の収集と管理を担う人、これが学芸員にあたります。もうひとつは、標本の作製加工技術の開発や技術指導を担う標本技術者(=標本土)です。

学芸員は、研究、資料の収集保管、展示・普及という3本の博物館事業をバランスよく進める必要があります。しかし、哺乳類や鳥の検体処理には時間がかかり、バランスは崩れがちです。今後は、鳥獣標本の作製等を標本土の仕事として学芸員の業務から切り分けることが大切だと思います。また、標本作製のプロセスを「お手伝い」と位置付けてボランティアに預けてしまうこともおかしいです。責任をもって仕事を遂行するためには、確かな技術と知識を持ち、さらに後進を指導する力もある人材を、博物館として確保すべきだと思います。

次に、標本土が働く環境を作ります。学芸員さえない不足している今、標本土のポストを確保することはとても難しいことです。し

かし、全く不可能というわけではありません。折しも国立科学博物館では、標本づくりをする職人をテーマに企画展が行われています。山階鳥類研究所など標本作製、管理を専門とするスタッフが活躍している施設もあります。このような施設の取り組みを参考に、標本土を迎え、鳥獣標本を作り継承していくにはどのような環境が必要か、2段階で考えてみました。

①標本作りを日常的に行なえる環境：標本作りに興味を持つ人々は多く、中には、専門家を志望する人もいます。単なる働き手としてではなく、将来を担う標本土の卵として活動できるように、標本用の材料(検体)、道具、場所を確保することに加え、発表の場を作り、標本土相互の研さんの機会を作ることが重要だと思います。もちろんそこには優れた指導者がいることが大前提です。

②標本土と連携する施設・学芸員の輪を広げる：1施設1人にこだわらず、複数の施設が協力すれば、標本土の雇用が可能かもしれません。複数の拠点で博物館の事業に関わり、後進の指導にもあたるとい形です。そのためには、連携する施設の担当者(多くの場合は学芸員)は、標本土の専門性や標本継承の重要性をよく理解して、自らの職務(資料収集管理と研究)を遂行し、常に意識向上に努める必要があります。

提案の実現を目指して

2017年度から、神奈川県内の博物館や動物園、科学館が連携して標本の管理や作製手法、情報管理をすすめるプロジェクトを始めました。10月には各館の担当者が当館に集まり、情報共有や技術習得の重要性をあらためて確認しました。「標本土プロジェクト」の布石を打っていきたいのです。

博物館の来館者数を考える—入館者700万人を迎えて—

たぐち きみのり
田口 公則(学芸員)

7104日で700万人！

2018年10月26日、当館は1995年3月の開館から700万人目のお客様をお迎えしました。大勢の方々に博物館を利用していただいていること嬉しい限りです。入館者700万人を機に、当館の来館者数について考えてみることにしましょう。

700万人に達した日は開館日で数えると7104日目にあたります。それでは50万人、100万人、200万人…と、それぞれの節目を迎えたのはどれくらいの日数だったのでしょうか？ 当館の年報データを見てみました。図1が開館日数と入館者累積数の関係を示したグラフです。7100日で700万人なら、1000日で100万人と大まかには一様に積み重ねてきたとも見えますが、細かくは変動があることが伺えます。開館から5年間は入館者が多く勢いがあり、6年目の初めの1613日目には200万人に達しています。その後ペースがおちついていきますが、400万人に達した4062日目以降にガクンと落ちる時期があります。

景気や噴火等の影響

2007年から2017年まで毎年、の常設展示入場者数、箱根町観光客数、国が出している遊園地・テーマパーク入場者数を調べ、それぞれ2010年の値を100%として指数化してその推移を示してみました（図2）。3つの線の値はそれぞれ、青線は当館の常設展示入場者数（開館日あたりの平均入場者数）、オレンジ線は箱根町の観光客数（データは箱根町の観光客実態調査報告書）、赤点線は総務省の特定サービス産業動態統計調査「遊

園地・テーマパーク」公表値による入場者数をもとにしています。

2008年から2009年にかけての低下は、世界的景気の悪化（リーマン・ショック）の影響でしょう。これにつづいて影響が及んだのが東日本大震災のあった2011年です。その後、回復していくなか、2015年に再び箱根町の観光客数がガクンと下がります。2015年4月下旬に活発化した大涌谷の火山活動の影響が箱根町全体の観光客数の推移にも現れています。当館の入場者数も少なからず影響を受けたように見えます。

いわゆる来館者数が、景気といった社会現象に加えて、時には噴火といった自然現象の影響を受けていることがわかりました。

来館者数を評価する！？

「来館者数が〇〇人を達成」と聞くと、その数字が目標と映り、なにか表面的な評価のみを扱っているのではと危惧してしまいます。その数字を大きな動向に位置づけてみるとともに、累積データの元となる個々の数字も合わせて見るのが大切でしょう。また、来館者数を扱うのであれば、まずは実際に展示室に身を置いて自分自身の目でみるのが大切なことと感じます。

展示室に立つことで色々と感じ取ることができます。たとえば、土日は来館者が多く、とくに子どもを連れた家族というグループの比率が高いことに気づくことでしょう。また、雨の日に展示室の様子を見てみると、箱根の麓という当館の立地特性から、博物館に立ち寄られる来館者が多いこともわかります。

当館では、このような来館者の傾向に対応して各種の企画を組んでいます。たとえば、家族連れが多い日曜日には、子どもたちが気軽に参加できる「よろずスタジオ」というイベントを開催しています。

来館者数といった情報をもとに、種々の活動の“カイゼン”をすすめていくことが重要なのでしょうか。この点において、東大総合研究博物館館長を務められていた林良博さん（現・国立科学博物館館長）は来館者数について、つぎのような興味深い伝統を紹介しています。「いかなることがあろうとも、来館者数を公開しない。（中略）東京大学総長といえども個別の展示の来館者数を知らない。大学の経営トップすら入館者数を知らないということは、来館者数で各展示を評価していないことを意味する。」（大学博物館の現状と未来、『学術の動向』12（2）18-23）これは経営に関わる際に数字が一人歩きすることへの危惧に対する態度であって、一方で博物館関係者は正確な来館者数を把握し、それは個々の企画展示評価に必要な情報としているそうです。来館者数に一喜一憂するだけでなく、きちんと展示評価に活かす態度は見習うべきなのでしょう。

来館者数を深く見るには来館者特性（年代、居住地、滞在時間など）を知ることです。しかし、「展示を個々にどのように楽しんでいるか」などは、数字で捉えることが難しい要素のひとつでしょう。いいかえると、博物館利用のパーソナライズという観点でどのようにアプローチできるかが今後の大きな課題です。来館者数が持つ意味を深めるには、来館者のことをもっと見つめていく必要がありそうです。

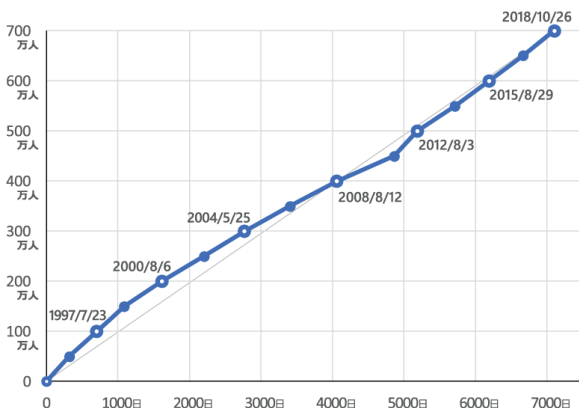


図1. 生命の星・地球博物館の累積入館者数。

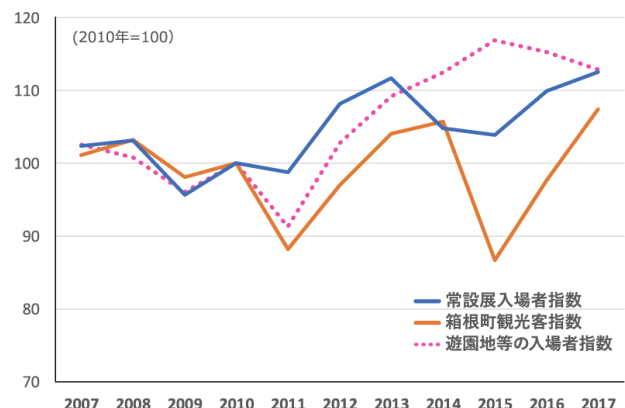


図2. 常設展示入場者指数、箱根町観光客指数、遊園地等入場者指数の推移。

催し物のご案内

2018年度 企画展「箱根ジオパーク展～身近な火山と友だちになる～」

開催期間／2019年3月2日(土)～5月12日(日)
観覧料金／無料(常設展は別料金)

2012年に認定された箱根ジオパーク(箱根町、小田原市、真鶴町、湯河原町)は、南足柄市域にエリアを拡大し、2016年に日本ジオパークとして再認定されました。企画展では、箱根ジオパークの魅力と、私たちの生活に広く関わる箱根火山の噴火活動を紹介いたします。



企画展関連行事

●「企画展関連観察会

～関本丘陵の箱根火山火砕流堆積物～

日時／3月10日(日) 10:00～15:00

※事前予約制

場所／南足柄市(関本丘陵)

講師／笠間 友博(当館学芸員)

対象／小学4～6年生

中学生、高校生、教員 30人

その他／要傷害保険加入

申込締切／2月19日(火)

イベント情報

●ミュージ・フェスタ 2019

開催日／3月16日(土)・17日(日)

ミュージ・フェスタは博物館の開館記念日を祝うお祭りです。今年もワークショップなど参加型の催しが盛りだくさんです。子ども大人も楽しめるイベントですので、どうぞ皆さままでお越しください。

●子ども向けワークショップ「よろずスタジオ」

開催時間／毎週日曜日 13:00～15:00

※当日受付・参加費無料

(第3日曜日は友の会と共催)

《事前申し込みの講座》

講座の内容・対象・申し込み方法等は、博物館ウェブサイトまたは催物案内をご覧ください。

●「魚をもっと知りたい人のための魚類学講座」[博物館]

日時／①1月19日(土)・20日(日)

②2月2日(土)・3日(日)

各9:10～16:00

対象／中学生～成人 各回10人

申込締切／①12月18日(火) ②1月15日(火)

※①②は同じ内容で、それぞれ2日間の参加が条件です。

●「はく製で学ぶ

どうぶつのかたちとくらし」[博物館]

日時／2月9日(土) 10:00～12:00

対象／小学1年生～中学生 20人

※小学生は保護者参加必須

申込締切／1月22日(火)

●「博物館ボランティア入門講座」[博物館]

日時／1月20日(日)～2月7日(木)

全体講義:1月20日(日) 10:00～16:00

分野別実習:期間中の1～2日

募集分野／植物、植物デジタル資料、菌類、哺乳類、魚類、無脊椎動物(貝・カニ)、古生物①(貝化石)、古生物②(脊椎動物化石・植物化石・微化石)、博物館教育プログラムの9分野

定員／各分野 3～5名

対象／中学生以上

※分野によっては、実習が平日に行なわれることがありますので、ご留意ください。

申込締切／1月4日(金)

ライブラリー通信

文人たちの博物誌④

えんどう しゅうさく

遠藤 周作の巻

つちや さだお

土屋 定夫(司書)

遠藤周作と聞いて「ああ、^{こりあん}狐狸庵先生ね」とわかる人は、どのくらいいるでしょうか。この狐狸庵先生、近年話題になった江戸時代初期のキリシタン弾圧を描いた映画『沈黙—サイレンス』の原作を書いた小説家です。キリスト教は遠藤の小説家としての大きなテーマの一つでしたが、一方で「狐狸庵」と称しているだけあって、ユーモアのセンスも多分に持ち合わせていた人でした。それゆえ、ユーモア小説や軽妙な随筆も数多く著しています。

今回取り上げた『わが最良の友 動物たち』は、そんな遠藤が生涯で出会ったり、飼ったりした動物たちをユーモアたっぷりに紹介したエッセイの数々を、彼の没後にまとめたものです。

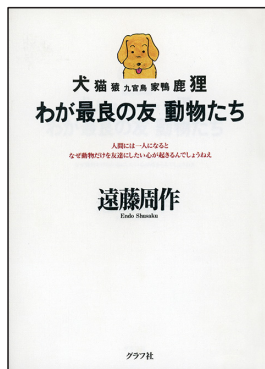
動物大好き人間だった遠藤は、家人のことなど少しも考えずに、突然、動物を連れてきたりしたそうです。それも犬や猫ならまだしも、デパートで猿を手に入れて帰ってきたりしたので、家人の猛反対を受けたという話などがいくつも出てきます。

遠藤は「なぜ家人たちが動物が嫌いなのかわからん」とまで書いていますが、そりゃあ、あなた、猿はマズいんじゃないの、とツッコミを入れたくなるほどです。

動物好きは「狐狸庵」と称していることから想像できます。狸についての話には、折とう師のお婆さんから、あんたには狸の霊がついていると告げられる場面が出てきますが、自分の前世は狸だったのかと驚くどころか、面白がり、楽しんでさえいます。

犬、猫をはじめ、猿、九官鳥、家鴨、狸など、どれも動物への愛情に満ちたエッセイばかりです。

インドに行った折にバナレスという聖地にいる古い師から、前世は鳩だったと言われ(狸じゃなかったんかい)、しかも来世は鹿になるとおごそかに言われたという話が「おわりに」として載せられています。前世も来世も動物というところが何とも面白いですね。



グラフィ社 2003年

【催し物への参加申込について】

講座名・開催日・代表者の住所・電話番号・申込者全員の氏名・年齢(学年)を明記の上、往復はがきにて当館住所まで郵送、またはウェブサイトからお申込ください。応募者多数の場合は抽選となります。抽選で落選した方に対し、キャンセル待ちの対応を行ないません。ご希望の方は、お申込時に、その旨をご記入ください。参加費は無料ですが、講座により傷害保険(1日50円/1人)への加入をお願いすることがあります。

問合わせ先 企画情報部 企画普及課

生命の星



自然科学のとびら

第24巻4号(通巻93号)

2018年12月15日発行

発行者 神奈川県立生命の星・地球博物館

館長 平田大二

〒250-0031 神奈川県小田原市入生田499

Tel: 0465-21-1515 Fax: 0465-23-8846

http://nh.kanagawa-museum.jp/

編集 本杉 弥生

印刷 株式会社あしがら印刷

© 2018 by the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History.

*冊子体には再生紙を使用しています。